

# 理解するための言葉、 伝えるための言葉

## 実は私も数学が苦手でした

最近、模擬授業などで高校生と接する機会が増えてきました。その際、「経済学部に入ったら数学が必要ですか」という質問をよく受けます。数学はなかなか抽象的なもので、中学や高校のどこかの時点で苦手意識を持った人も多いのではないのでしょうか。経済学では数式が用いられることも多く、また経済データを分析しようとするれば統計学が必要になります。しかし、数学が苦手な人が経済学部にはふさわしくないとは思いません。実は私自身は、数学が苦手です。しかし、経済学は数学そのものではなく社会を理解するためのものですから、いくら計算が得意であっても、その数式が表す意味を理解しなければ意味がありません。その意味で、経済学は具体的なもの

**角井 正幸**

Masayuki Tsunoi

【研究テーマ】

合衆国農業部門の史的展開に  
関する実証分析



です。

一般に数式は、言葉で表すのが面倒なことをシンプルに表現することに長けています。逆にいえばこれは、手間をかければ数式で表現されている内容が、言葉で表現し直すことができるということです。数学嫌いの私が数学に取り組まなければならなくなった時、たとえ人より手間をかけても数式を言葉で理解するように心がけました。「数学が得意な人」とは、微分・積分の計算や方程式を解くのが得意な人のことを指しているのかもしれませんが。さらに数学が得意な人は、数式が表していることをそのまま理解できるようです。しかし、たとえ数学が苦手であっても、何事も自分自身の言葉で理解できているかを常に意識して考えることによって、より理解を深めることができるのではないかと考えています。

## 言葉には TPO がある

さて、模擬授業は大学の講義とは異なり、数十分の授業1回でひとつのトピックを完結させなければなりません。大学の講義と勝手が違うので、授業の準備をする際に悩むこともしばしばです。しかし、短い時間で自分の伝えたい内容を簡潔にまとめ、高校生が理解しやすいように授業を工夫する作業は、日々の講義のあり方を考え直す良い機会ともなっています。もちろん、大学で講義をする際にも大学生への伝え方を意識しています。

ここで考えたいのは、人に何かを伝え理解を求めするためには、伝える相手を念頭に置いた伝え方の工夫が必要



となるということです。それは、言葉の使い方そのものから相手に合わせて使い分ける必要があることを意味しています。たとえば、友人とメールで約束を取り交わすときと小論文のテストとでは、まったく異なる言葉遣いや文体を使い分けているでしょう。言葉には、その場その時にふさわしい使い方があり、それを使いこなさなければならぬのです。

また、模擬授業では授業後に感想文を書いていただく機会が多くあります。その中で、私の授業に対する感想として「経済学部の授業らしくないと思った」というものが多く寄せられます。私の専門はアメリカの経済史ですので、たとえば「アメリカ史におけるフロンティア」というタイトルで模擬授業を行います。その内容は、開拓時代のアメリカにフロンティアが存在したことが、アメリカの社会やアイデンティティの形成や経済的側面などにどのように影響していたのか、また、なぜ人々はフロンティアに赴いたのかなどについて話しています。そこにはほとんど経済学が登場しないので、「経済学部の授業らしくない」と思われたのでしょう。実は、このような感想を持ってもらうことが私の模擬授業の狙いのひとつでもあるのです。

## 思考する人間を社会に送り出すのが大学の使命

冒頭で「経済学部に入れば数学が必要か」という問いに対して、ひとつの考え方を示しました。外から見てこのような問いが発せられるのは、経済学部が経済学を学

ぶ場であるというイメージがあるからではないでしょうか。それ以外に何が考えられるのかと不思議に思うかもしれませんが、私の考える同志社大学経済学部は、経済学のみならず、「経済」について学び考える場であるというところに存在意義があるように思います。

私たちが社会や経済の現象に興味を持ち、それについて知りたいと思うとき、自分で理解できるように表現されて初めて新たなことを知ったという知的好奇心を満足させることとなります。経済学は経済を知るための手段のひとつです。経済学という言葉を使うにせよ使わないにせよ、物事を考える際には必ず「言葉」を用いて考えるはずで、そのためには、「自分の言葉」を使う力を磨いておかなければなりません。

大学は、疑問や問題に突き当たったとき、その解き方を教えてもらう場ではなく、どのように考え分析し、それを人に伝えるかというプロセスを学ぶ場です。そして、その役割を担っている大学は、思考する人間を社会に送り出すことで評価されています。考え分析する際には自分なりに咀嚼そしゃくした言葉が必要となりますし、人に伝える際には相手の理解を促す言葉が必要となります。「いつ」「どこで」「(自分も含めて)誰に対して」使う言葉であるかを意識することが、「何が」問題であり、「なぜ」と思うことを、「どのように」考え伝えるかを成功させることにつながるはずで

